

新潟市アグリパーク要求水準・目標値(評価指標)

視点	評価項目	平成30年度評価指標	平成30年度実績	評価	コメント
	入場者数	20万人以上/年	189,312人	C	指標を下回った
		宿泊施設の稼働率 : 39%以上/年	37%	C	指標を下回った
	食育の推進	教育ファームカリキュラムの受講者 : 27,000人以上/年	23,518	C	指標を下回った
	新規就農者支援	就農支援プログラムの受講者数 : 600人以上/年	1,089	A	指標を大きく上回った
	6次産業の推進	・食品加工支援講習会の開催 : 70回以上/年 ・食品加工支援講習会の受講者 : 470人以上/年	・食品加工支援講習会の開催 : 69回 ・食品加工支援講習会の受講者 : 548人	A	講習会の実施回数は指標を下回っているが、受講者数が指標を大きく上回っているためAとした
		・HPの情報更新 : 20回以上/年 ・アクセス件数 : 12万回以上/年	・HPの情報更新 : 142回 ・アクセス件数 : 121,425回	A	HPの更新回数が指標を大きく上回ったためAとした
	利用者の満足度	利用者アンケートで「満足」が85%以上	92.10%	A	指標を大きく上回った
財務	適正な財政運営	収支計画に基づく収入の確保及び費用の執行	指定管理収支が赤字	C	指定管理収支が赤字なためCとした
	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び収支状況の記録	適正に実施	B	指標通り
業務	安心・安全の確保	・防災訓練: 年2回以上実施 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成	・防災訓練: 2回 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成済	B	指標通り
	コンプライアンスの徹底	職員へのコンプライアンス研修受講 : 1回以上/年	1回	B	指標通り
	市内産業の貢献	・再委託する場合の市内事業者への再委託及び資材等の市内事業者(店舗)等からの調達率 : 90%以上	100%	A	指標を大きく上回った
	関係団体・地域との調整	関係機関・地域との連絡調整会議の実施 : 各1回以上/年	20回	A	指標を大きく上回った
	市民協働の推進	ボランティアの受入れ : 延べ1,000人/年以上	753人	C	指標を下回った
	社会貢献	施設内の各種作業についての障がい者の受付 : 延べ100人/年以上	102人	B	指標通り
	施設の稼働	年中無休	年中無休	B	指標通り
人材	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	適正に実施	B	指標通り
	業務の理解度と習得度	職員の業務研修 : 1人あたり2回以上/年	4.05回/年	A	指標を大きく上回った
	市内雇用の貢献度	市内住居者の雇用率 : 90%以上	92%	B	指標通り
指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)					
<p>平成30年度の総来場者数は189,312人となった。対前年度比で109.0%である。農家レストランの営業復活、冬期間の降雪量が少ないこと等が増加要因である。今後、11月から2月のプログラム・イベント開発等の冬期間対策を含め、年間を通じて安定した集客が課題である。</p> <p>教育ファーム関係では、学校は延べ189校、10,533人が来園した。前年度と比較して、利用学校は17校(460人)減少した。小学校の利用割合が最も高く、全体の約73%(137校)を占めている。その他の学校種別では幼・保22園(12%)、中学校21校(11%)、特別支援学校5校(2.6%)である。月別の利用では、5月、10月、11月の利用が多く、1月から3月までが少なかったが、2・3月のイチゴを利用したプログラムは増えている。宿泊利用の学校は、延べ28校で、全利用学校の15%であった。また、利用地域は、約98%が市内の園・学校であるが、三条市・燕市から小学校3校の利用があった。なお、参加学校からの評価は引き続き高く、満足度も高かった。教育ファームで考える課題として①冬期間(12月から3月)のプログラム開発②インストラクターの資質向上③提示資料の充実④大規模校への対応を挙げ、次年度以降もさらなる利用者の獲得に資するべく課題の解決に取り組みたい。</p> <p>食品加工支援業務関係では、農業の6次産業化のベースとなる食品加工の基礎を学ぶための食品加工講座を69回開催し、過去最高の延べ548人が受講した。試作のための加工室利用も過去最高で、延べ343回744人が利用、個別の加工室利用者は85%が農業関係者であった。30年度では商品化された製品が24品、一次加工品が16品(前年度は1品)となり、商品開発についても過去最多となった。特に一次加工品が大きく増加した。さらに、技術相談の回数・相談者数も過去最多で大幅に増加した。今後もニーズに沿った講座、相談事項への適切なアドバイスの提供など、利用者増に努めていきたい。</p> <p>就農支援事業では、農業塾に前期・後期合わせて22名が受講、就農相談業務では、新規相談者が9名、経営相談者が1名、就農後の相談者が2名あった。なお、果樹就農体験研修は2名が受講した。農業経営学講座には、4講座16回コースに延べ28名が受講した。国も推進している農福連携事業は、8施設延べ87名に、10回にわたり障害者の就労に向けた訓練を実施した。農業者の高齢化や担い手不足、障がい者の就労など農業には多様化且つ大きな課題等があることから新潟市アグリパークの就農支援事業もそれらに対応した多様な事業展開を今後行う必要がある。</p> <p>その他、施設の周知と誘客を図るべく、施設の色を生かしたイベントをほぼ毎月開催した。うち周年祭(5月)、収穫祭(10月)、ふるさと祭り(1月)は三大イベントして位置付け、農村地域に伝わる伝統行事(どんと焼き)や食の体験(漬物講座)を地域コミュニティ協議会や文化団体と協働して行った。</p> <p>次年度についても引き続き各種取組みを継続していくとともに、一般利用者増大のため、直売所やレストランとも連携を強化し各種イベント等を検討、実施し、より市民に近い施設を目指した運営を行い、利用者数の増大、行政施策の市民への周知を目指していく。</p>					
所管課による総合評価(所見)					
<p>アグリパークの設置目的及び事業計画書に基づいた適切な管理運営が行われている。</p> <p>来場者数については目標を達成できなかったものの、前年比で109.0%となった。地域のコミュニティ協議会や文化団体などとの協働によるイベントを積極的に開催し、農村地域と都市住民の交流推進に継続的に取り組んでいることを評価する。</p> <p>来場者満足度は92.10%と目標を大きく上回っており、日ごろの職員の接遇や、来場者が楽しめるよう創意工夫を凝らした企画の実施などによって、高い評価につながったものと考えられる。</p> <p>運営収支については、自主事業収入の減などにより予算を下回る結果となったものの、経費の節減などに努めたことで収支の改善が図られたことを評価する。</p> <p>引き続き、現在の取り組みをさらに発展させ、新規来場者の掘り起こしやリピーターの確保に努めるとともに、来場者が安心して安全に利用できる施設運営を継続し、多くの方に満足していただける施設となるよう取り組んでいきたい。</p>					